

SA 講演会実施

演題 「文理融合授業からの提言」

今年度のSA講演会を2月23日(金)、志学館にて開催しました。「文理融合授業からの提言～高校の授業すべてが将来につながる～」と題して、京都大学 常見俊直 先生(物理学)、後藤忠徳 先生(資源工学)、滋賀大学 安藤哲郎 先生(地理歴史)から京都市内での修学旅行(自主研修)のモデルコースをもとに、各見学(学習)ポイントで水・人・技術に関わるお話をいただきました。講演では一つのテーマに対して、3名の先生が専門分野毎に代わる代わる説明し、互いに質疑応答を交えながら会話形式で展開されました。例えば寺社の話の場面では、古文書に関連して、地下構造や色(光)の話も付随されており、高校生の学習においては、地理歴史、古文、物理、地学が融合したものとなっていました。学問には文系的理系的側面があり、それらが絡み合っていることを教えていただきました。



図1 講演のようす(左より、後藤先生、常見先生、安藤先生)

【感想】

- ・文系と理系は別のものだと思っていましたが、合わせてみると新しく発見することがたくさんあるのだと分かりました。
- ・自分たちの周りにある身近なことの1つに注目しても、その出来事には、たくさんの科目が関わり合って成り立っているのだと思いました。
- ・京都という1つの場所を複数の観点から見ているところが、今まで自分では見たことのない視点で興味を持った。
- ・理系の視点で実験をしている時、視点を変えれば文系の思考になるということが分かった。
- ・自分の好きなところから学びそれを深めていくことと、様々な分野を幅広く知っていることが大学を目指す上で重要なことだと分かった。
- ・講演中の先生方のやり取りが面白くて、楽しみながら講演を聞くことができた。
- ・今回の講演を聞いて、学習することへの楽しさを見つけた。

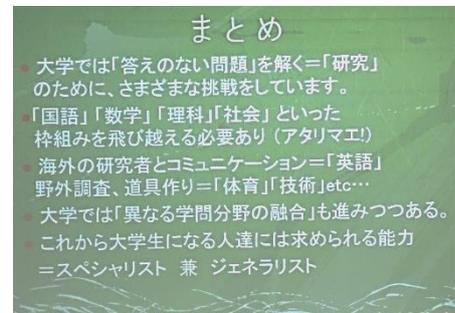


図2 まとめのスライド

